



静岡キャンパスの図書館に gallery があることを知っていますか。そこで出会った展示物が誰かの居場所で、もしかすると自分の居場所になるかもしれないってなんだかワクワクしませんか。

1. 図書館 gallery

「海が見える図書館」として愛される静岡キャンパスの図書館で、私たちはもう一つの魅力を見つけました。それが「図書館 gallery」です。暖かな色合いの灯りが点り、落ち着いた雰囲気を感じるその部屋は、そこに飾られている展示物の景色に自分をなじませてくれます。展示物との出会いはいつも新鮮で、例えるなら、一冊の本を読みそれに書かれた世界観が自分の一部になっていく感覚にも似ているし、今まで何度も見ている海を図書館の窓から見て感動するようでもあります。



2. grandiose 展示

図書館 gallery は、本学の教職員・学生の研究成果の発表・作品展示に利用することができます。さまざまな学術・文化活動を進めている学内の人たちの成果を知り、交流する場として設けられています。

今回、私たちが見つけた図書館展示のタイトルは「#多様な性の日常」。展示を行ったのは、静岡大学LGBTサークル「grandiose」という団体でした。

LGBTとは女性同性愛者 (Lesbian) ・男性同性愛者 (Gay) ・両性愛者 (Bisexual) ・トランスジェンダー (Transgender) の頭文字をとった性の多様性を表す言葉で、「#多様な性の日常」ではLGBTにまつわる様々な展示物が公開されていました。

3. grandiose 取材

静岡大学LGBTサークルgrandioseは、2015年の春に静岡キャンパスで発足しました。週に1度の定例会でLGBTについての意見交換や交流を行っているほか、大学の講義で講師を担当するなど、様々な形で活動を行っています。

図書館展示は毎年続けてきた活動の一つで、今回で3度目を迎えるとのこと。2年目の図書館展示は、静岡キャンパスで大変好評となり、静岡新聞の取材も受けたとのこと。さらには、浜松キャンパスにおいても展示が行われました。私たちは、今回が初めての訪問となりましたが、こうした評価も納得の内容でした。今回の展示内容は、サークル紹介に始まり、当事者の声や性的マイノリティを扱った映画・本の紹介、静岡大学内でセクシュアリティについて学べる講義の紹介についてのパネルでした。

「何かをするサークルという訳ではないけれど、存在自体が助けになってくれればいい。性的指向関係なく色々な人と話し、必要とする人のために動きたい」というのがgrandioseの考え方だそうです。

4. 図書館 gallery で grandiose に出会って

LGBTという言葉は社会に浸透し、関心も高まっています。静岡大学では、性的マイノリティについて講義で学ぶこともあります。そのうえで、今回は、grandioseの展示・取材を通じて、性的マイノリティに関して見識を深めることができました。

grandioseは、性的マイノリティの支援や権利を主張しているわけではありません。ただ純粋に、知識の一部だったLGBTを、大学生にとって身近に思わせてくれる、自分の生きる社会の一部にしてくれる存在なのです。



編集後記

今後もキャンパス内外での出会いを通して静岡大学生の「今」をお伝えしていきたいです。取材を受けてくださったgrandioseのメンバー各位ならびに、ご協力くださった全ての方へお礼を申し上げます。

担当 人文社会科学部
3年 高橋のぞみ
2年 宮澤かれん

《grandioseに関心のある方はこちらへ》 lgbt.grandiose@gmail.com